

2023年2月3日

各位

会社名 オムニ・プラス・システム・リミテッド  
(OMNI-PLUS SYSTEM LIMITED)  
 代表者名 最高経営責任者 (Chief Executive Officer)  
 ネオ・プアイ・ケオン (Neo Puay Keong)  
 (コード番号: 7699 東証グロース)  
 問合せ先 株式会社OMNI-PLUS SYSTEM Japan  
 代表取締役社長 重田 直行  
 (03-6841-3922)

### 通期業績予想の修正に関するお知らせ

最近の業績動向を踏まえ、2022年5月13日に公表いたしました2023年3月期通期連結業績予想を下記の通り修正いたしましたので、お知らせいたします。

#### 記

#### 1. 2023年3月期通期連結業績予想の修正 (2022年4月1日～2023年3月31日)

	売上収益	売上総利益	税引前利益	当期利益	基本的1株 当たり当期利益
前回発表予想 (A)	千米ドル (千円) 409,900 (54,393,730)	千米ドル (千円) 43,400 (5,759,180)	千米ドル (千円) 22,500 (2,985,750)	千米ドル (千円) 18,500 (2,454,950)	米ドル (円 銭) 0.8785 (116.58)
今回修正予想 (B)	328,100 (43,538,870)	44,800 (5,944,960)	19,300 (2,561,110)	16,000 (2,123,010)	0.7598 (100.83)
増減額 (B-A)	△81,800 (△10,854,860)	1,400 (185,780)	△3,200 (△424,640)	△2,500 (△331,750)	
増減率 (%)	△20.0	3.2	△14.2	△13.5	
(ご参考) 前期連結実績	318,452 (42,258,580)	34,085 (4,523,080)	19,079 (2,531,783)	16,652 (2,209,720)	0.8001 (106.17)

(注1) 当社業績予想は米ドルで行っております。本書において円で表示している金額は、便宜上、2022年12月30日現在の株式会社三菱UFJ銀行の対顧客電信直物売買取相場の仲値に基づき1米ドル=132.70円で換算された金額であります。

(注2) 当社は、個別での財務諸表を作成しておりませんので、連結業績予想のみを開示しております。

製品区分別売上収益	期初予想 (A)	今回修正予想 (B)	増減額 (B-A)	増減率 (%)	前期実績
ジェネリック (汎用) プラスチック	千米ドル (千円) 268,200 (35,590,140)	千米ドル (千円) 194,700 (25,836,690)	千米ドル (千円) △73,500 (△9,753,450)	△27.4	千米ドル (千円) 210,010 (27,868,327)
スペシャリティ (特殊) プラスチック	141,700 (18,803,590)	133,400 (17,702,180)	△8,300 (△1,101,410)	△5.9	108,442 (14,390,253)
合計	409,900 (54,393,730)	328,100 (43,538,870)	△81,800 (△10,854,860)	△20.0	318,452 (42,258,580)

## 2. 修正の理由

- (1) 2022年12月に主要な最終顧客からの需要が急激に減速し、これらの最終顧客の年度末の売上が計画に達しない見込みとなりました。その結果、これらの最終顧客は、次年度の売上見通しを下方修正しました。具体的には、ある家電メーカーの最終顧客は、特定製品の販売不振により生産計画を80%削減しました。また、ヘアケア製品を販売している最終顧客は、売上が50%減少しました。このような最終顧客からの販売減少の情報に加え、現在の市場材料価格の下落傾向も加味し、当社の第4四半期の売上見通しを下方修正しました。
- (2) 当期利益の見通しに大きな影響を及ぼしているのは、売上収益の減少予想に加え、主要地域通貨に対する米ドル高の傾向が挙げられます。このため、第3四半期連結累計期間において、160万米ドルの為替差損を計上しています。

第2四半期決算短信発表時点では、新型コロナウイルス感染症の収束及び、欧州の状況は不透明ではあるものの、極端な悪化はないと想定しており、下半期の売上収益及び当期利益は、堅調に推移するものと予想していました。しかし、最終顧客からの最新情報の入手や市場材料価格の下落により、2023年3月期通期業績予想を修正することとなりました。

2023年3月期通期の売上収益は、期初予想比20.0%の減少を見込んでいます。製品別の売上収益につきましては、ジェネリック（汎用）製品が、期初予想比27.4%の大幅な減少を見込んでいますが、スペシャルティ（特殊）製品への影響は、比較的軽微であり、期初予想比5.9%の減少を見込んでいます。

しかしながら、売上総利益率の高いスペシャルティ（特殊）製品の販売への影響が比較的軽微であることと、プロダクトミックスによる高価格戦略により売上総利益率が3.0%向上すること（前期実績（2022年3月期）：10.7%、今回修正予想：13.7%）、さらには厳格なコスト管理により税引前利益及び当期利益への影響は、軽微と予想しています。

なお、前期実績（2022年3月期）と比較して、売上収益は3.0%の増加を見込んでいます。製品別では、ジェネリック（汎用）製品は7.3%の減少を見込んでいますが、スペシャルティ（特殊）製品は23.0%の増加を見込んでいます。また、当期利益は3.9%の減少を見込んでいます。

しかし、ウクライナ紛争が終結しない状況が続き、また新型コロナウイルスの新種が予想以上に感染を拡大した場合、状況は急速に変化し、再びサプライチェーンに影響を及ぼし、多くの国々で運用コストが上昇する可能性があります。また、一部の国々の政治情勢が不確実であるため、見通しがさらに悪化する可能性があります。さらに、世界的な金利上昇は今後も続くことが予想されるため、資金調達コストの上昇につながります。当社は、これらの影響が2023年3月期中は続くと想定しており、今後も市場の動向を注意深く監視し、当社グループの業績に重大な影響が発生した場合には、速やかに開示いたします。

※本資料に記載した業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は、様々な要因により大きく異なる可能性があります。

以 上